

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立津島高等学校

学校番号(48)

教育方針	人格の完成を目指し、国家及び社会の有為な形成者として、文化の創造と発展に寄与する人間を育成する。	重点目標	確かな学力と豊かな心を育て、社会に役立つ力を身に付けさせる教育の推進 －挨拶・清掃・傾聴の徹底－
-------------	--	-------------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	少人数制や習熟度別授業を適宜設定し、生徒の進路に合わせた授業をできるだけ実施することで、授業に熱心に取り組む生徒が90%以上となることを目指す。	B	生徒の授業満足度は96.6%、「授業がよく分かる」の項目が85.5%、「授業に熱心に取り組んでいる」の項目が78.2%であり、生徒は全体として積極的に学習に取り組んでいる。	教員数が減って、少人数制や習熟度別授業の実施が困難になっている。来年度も可能な限り実施し、生徒の進路に合わせた授業をすることで、授業に熱心に取り組む生徒が90%以上となることを目指す。
	読書指導の充実	蔵書に関する情報提供を積極的に行うとともに、利用しやすい図書を選定と購入に努める。図書貸出冊数一人当たり年間3冊以上を目指す。	A	「読書の習慣が身に付けている」の項目が59.1%で低いですが、昨年度より13ポイント上昇している。一人当たりの貸出冊数数は2.9冊となり年度末までには目標の数値に達すると思われる。	図書館利用を更に推進するため、蔵書に関する情報提供を積極的に行う。また、利用しやすい図書の選定と購入に努める。また、調べ学習でパソコンを利用しやすいように整備・環境を整える。
	自主学習の充実	学習の動機付けと適切な課題を与えることで、一日2時間以上の自主学習時間確保させる。自主学習の習慣を身に付けている生徒が70%以上となることを目指す。	B	「自主学習の習慣が身に付いている」と答えた生徒が54.5%と昨年よりも上昇した。普段から学習する生徒が増えてきているが、目標には達していない。	自主学習を身に着けさせるには、適切な小テストの実施を各教科で検討する必要がある。また、長期休暇中の学習を定着させるために、休み明けに実施している「課題テスト」の在り方について再検討する。
	アクティブ・ラーニングの充実	生徒が主体的、対話的に深く学ぶ機会を更に増やしていくため、全ての教科で生徒が発表する機会を増やす。また、校内だけでなく他校の公開授業などにも、積極的に参加し交流をする。	A	外部から講師を招き研修会を実施することで、アクティブ・ラーニングの目的について理解し、全ての教科で生徒が主体的に取り組む機会を増やすことができた。また、他校の公開授業にも積極的に参加した。	生徒が主体的・対話的で深く学ぶ機会を更に増やし、学習意欲が高まるよう授業改善を図る。また、校内研修を充実させるとともに、引き続き他校の発表会等にも積極的に参加し交流を図る。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	遅刻防止の指導を徹底し、遅刻者1日3名未満を目指す。基本的生活習慣の確立に努め、全校での年間通算出席率95%以上を目指す。	B	生徒87.3%・保護者88.8%と高い数字で生活習慣が身に付いているとしているが、遅刻・欠席が多くみられる。健康で安定した高校生活を送るにはまだまだ改善の余地がある。	5分前登校を周知徹底することにより遅刻の防止に努めたい。また、欠席の減少については生活リズムの確立を図っていききたい。
	規範意識の育成	携帯電話等の校内での使用ルールを徹底させ、指導0件を目指す。高校生らしい端正な服装に留意させ、身だしなみ検査での違反率5%未満を目指す。	A	携帯電話の校内ルール・身だしなみ指導の違反等昨年に比べ少なくなっている。生徒の意識が高まっているようである。今後も継続して指導していきたい。	近年ブラック校則といわれる生徒の人権に関わる校則が問題となっている。こういった点も踏まえ、校則の見直しも必要かもしれない。また、校則は生徒を守るためにあることを理解せ、自ら守る気持ちを育てる。
	特別活動の活性化	部活動や委員会等の充実度が90%以上となることを目指し、生徒が主体となった特別活動が進められるよう、中学校と連携の下、部活動の再編整備を早急に取り掛かる。	B	生徒84.5%・保護者80.8%で目標に達していない。90%以上になるよう部活動の再編整備に取り組みたい。	部活動の再編については現在進行中である。継続的に本校の生徒にあった部活動の再編を行いたい。委員会については、来年度から精選して充実した活動ができるようにしたい。
	交通安全意識の高揚	交通安全マナーアップ講座等を通して、交通安全意識の高揚を図る。自転車利用におけるヘルメットの着用率100%、交通事故0件を目指す。	A	本年度交通事故が2件起きているが、重大な事故とはなっていない。目標には達していないが、十分評価はできると思う。	命の大切さを認識させ、交通事故0を目指したい。また、もし起こった時の適切な対応についても周知徹底させたい。

人権教育	人権委員会活動の充実	地域機関と連携し、人権委員の学びの深化を目指す。また、全校生徒の人権意識の向上を目指し、年間11回の人権デーを実施し、人権委員会が主体となって運営に取り組む。	A	人権デーについては計画どおり実施できた。また、人権委員会の初めての活動として、奈良県への現地研修を実施すること、その成果を地域の方々及び全校生徒に報告することができるなど充実した1年となった。	今年度実施した、県外研修を来年度も実施したいと考えている。宇和島市教育委員会津島支所や、人権教育協議会津島分会等の各機関との連携を深めていきたい。
	充実した人権教育の実施	人権・同和教育ホームルーム活動や講演会などを通して、地域に開かれた人権・同和教育を目指す。また、年間3回の人権・同和教育教職員研修会やミニ研修を通して教職員の人権意識の向上を目指す。	B	今年度も人権・同和教育教職員研修会を3回実施することができた。また、1月には、外部講師を招いて講演会を実施することもできた。	来年度は、校務のスリム化の観点から、教職員研修を2回とするが、その部分のどのように補い人権教育の充実を図るか検討しなければならない。
	情報モラル教育の充実	生徒に携帯電話やインターネットの適切な利用法を理解させ、SNS利用等によるトラブル0件を目指す。インターネットの使用に関する講座を探究の時間等を活用して実施する。	B	生徒対象に研修講座「携帯電話やネットに潜む危険性について」を実施し注意喚起を呼びかけたが、アンケートの回答の中にもLINEでのトラブルも発生しており、更なる取組が必要である。	今年度同様に、生徒対象に研修講座を開催し、インターネットの正しい利用方法について指導していきたい。また、アンケート等で現状把握も実施したい。
進路指導	キャリア教育の推進	学年と連携を密にしてインターンシップの意識付けを図り、生徒の満足度100%を目指すとともに、地域の産業や企業への理解を深めさせる。また、担任及び進路課との面接を充実させ、細やかな進路指導の徹底に努める。	A	インターンシップや進路説明会は、生徒・保護者とも進路選択に役立ったと感じており、進路実現はもとより望ましい勤労観や職業観を育てるために効果的な取組であった。	生徒の職業意識の形成を図るとともに、地域の産業や地元企業への理解を深め、地域における就職促進につながるよう、地域との連携を更に深めていきたい。
	検定資格取得指導の充実	検定資格取得率100%を目指す。資格取得を通じて得られた達成感を、学習意欲の向上にも役立て、進路実現に対する意識高揚を図る。	B	3年生資格取得率は91.9%で、昨年度よりも2.8ポイント減少した。また、資格取得に対する生徒の意識は、昨年に比べ若干上昇したものの、まだまだ十分な状況とは言えない。	卒業時の資格取得率100%を目指し、授業や補習授業を更に充実させたい。また、資格取得を通じて得た達成感を日々の学習活動に生かせるよう指導していきたい。
	個に応じた進路指導の充実	補習授業時間(SUT)を確保し、効果的な学習環境の整備に努め、第一志望の合格率100%を目指す。迅速かつ適切な進路情報の提供と積極的な進路室利用の呼び掛けを通して進路指導の充実を図る。	B	進路実現に対する様々な取組によって、生徒の進路意識高揚に役立てることができた。今年度の進学・就職第一希望合格率は、97.3%であり昨年度と同様に高い結果となった。	進学指導において各教科が効果的な取組を工夫しながら、生徒一人一人の学力並びに学習意欲を喚起させたい。また、個別面談を充実させ、個に応じた進路実現の準備を早期から取り組ませる。
学校経営	学校安全体制の強化	危機管理マニュアルの見直しを行い、更に迅速な対応を行う組織体制を整備する。また、地域との連携を密にし、災害発生時の協力体制を強化する。	B	地域と連携した防災訓練を、年間2回実施した。来年度に向け、危機管理マニュアルに4項目の対応を追加した。高校生2名、教職員3名が新たに防災士に認定された。	危機管理マニュアルがより使いやすくなるよう内容を整理する。また、地域との連携を更に強化し、高校生及び教職員防災士の拡充を図る。
	地域との結び付きを大切にしたい教育の推進	地域での交流学习を充実した内容となるように工夫する。また、地域貢献を通して生徒の社会性や自己肯定感を高める取組を継続的に実施する。	A	宇和島市、高齢者福祉施設、幼稚園、地域事業所との交流学习を延べ25回実施した。生徒の満足度は昨年度から2.4ポイントアップの92.8%であった。	地元の関係機関と連携した交流学习を継続し、地域の良さを再確認させるとともに、地域への誇りを持たせて郷土愛を醸成する。
	地域について学ぶ学習の充実	地域の歴史や伝統文化に関する学習を計画的かつ系統的に実施する。また、地域からの協力体制を生かし、地域から学ぶ機会を各学年で設定する。	B	各学年で発達段階に応じた体験活動を実施し、それぞれ成果を収めた。生徒の自己評価について、地域奉仕活動やボランティア活動においては昨年度から1.2ポイントアップ、インターンシップにおいては3ポイントアップしている。	各学年における地域から学ぶ学習に際し、地域関係者を含めた事前指導、事後指導を通して地域の歴史や伝統について学ぶ機会を設定する。また、学習内容が深まるよう系統性を持たせる工夫をする。
	広報活動の充実による開かれた学校づくり	「津高タイムズ」を活用し、より広く情報発信できるように工夫するとともに、ホームページの内容充実にも努め、アクセス数平均250回/日以上を目指す。また、報道機関を活用した学校の魅力紹介を積極的に行う。	A	「津高タイムズ」やホームページの活用に加えて、学校PR動画を作成し幅広く広報した。ホームページのアクセス数は225回/日であったが、内容については高評価を得ている。また、報道機関に積極的にプレス発表し、学校の魅力紹介に努めた。	「津高タイムズ」やホームページによる情報発信を更に工夫するとともに、報道機関を活用した学校の魅力紹介を積極的に行い、開かれた学校づくりを推進する。また、ホームページアクセス数の向上を図る工夫をする。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。